

## ◎ 天理市並川市長が柳本飛行場を初見学

### 1. これまでの経過

2023年8月8日、天理市並川市長が柳本飛行場を見学し、「天理・柳本飛行場跡の説明板撤去について考える会」の高野共同代表から説明を聞いた。

1995年、天理市と市教育委員会は「建設のため多くの朝鮮人が動員や強制連行された」とする内容の説明板を跡地に設置した。

しかし、外部から「朝鮮人強制連行」「従軍慰安婦」などの文字が入っているとの批判があり、これを受けて並川市長は説明板を2014年に撤去。

上記「説明板撤去について考える会」は、再設置を要求してきたが、市は説明板を設置しようとしませんでした。

### 2. 今年度の動き

2023年度に入って、天理市議会で「F議員」が「柳本飛行場の歴史」について講演を行いました。議場の議員ら（市長も含む）は、誰一人私語もせず「天理と戦争」についての内容を聞いていたそうです。F議員は、私の「天理に戦争があった」（本ホームページに掲載）を下敷きに天理の

戦争について語ったそうです。興味のある方は過去のページをご覧ください。

さらに、韓国ソ・サン市との平和友好関係が、説明板撤去とともにブチ切られていること。このまま、韓国との国際関係を何とかしなければならない状態に来ていることも2番目の理由ではないでしょうか。

3番目に、「日本維新の会」所属の他府県・市長は、戦争遺跡をあたかもディズニーランド施設であるかのように作り物の零戦を作って展示したり、映画で使われた作り物の機関銃を展示して観光用に使っているのです。

同じ政党所属の並川市長が歴史無視のエンターテイメント戦争遺跡を天理に作ってしまわないか、「説明板撤去について考える会」の高野共同代表は、市長に対して「歴史の重みを大切にしてほしい」旨を訴えました。

次のページに掲載した新聞記事は、2023年8月16日毎日新聞奈良版よりの抜粋です。

# 柳本飛行場遺構群保存へ

## 市長方針「説明板考える会」と視察

**天理** 太平洋戦争末期に天理市で建設された「大和海軍航空隊大和基地」（通称・柳本飛行場）の遺構群の活用方を考えようと、並河健市長ら市と市教委幹部が8日、市民団体メンバーとともに跡地周辺を視察した。並河市長は「歩調れば市内が本土決戦の戦場になっていたかもしれない歴史を次世代に伝えたい」と語り、遺構群の保存を目指す方針を示した。

柳本飛行場は広さ約3000㎡。1943年秋ごろに建設が始まったとされる。本土決戦での重要基地として、

太平洋戦争末期に天理市で建設された「大和海軍航空隊大和基地」（通称・柳本飛行場）の遺構群の活用方を考えようと、並河健市長ら市と市教委幹部が8日、市民団体メンバーとともに跡地周辺を視察した。並河市長は「歩調れば市内が本土決戦の戦場になっていたかもしれない歴史を次世代に伝えたい」と語り、遺構群の保存を目指す方針を示した。

柳本飛行場は広さ約3000㎡。1943年秋ごろに建設が始まったとされる。本土決戦での重要基地として、

戦後  
78年



「天理・柳本飛行場跡の説明板撤去について考える会」の高野真幸・共同代表（左端）の説明を聞きながら、柳本飛行場の遺構を見て回る並河健・天理市長（中央手前）ら。天理市で

に再設置を求めたが、市は「多様な歴史認識がある」と拒否。このため考える会は19年、別の場所に強制連行があったとする内容の説明板を自前で設置した。

今回の視察は、市と考える会が遺構群のあり方について話し合いを重ねる中で実現し

た。考える会の高野真幸・共同代表（左）が案内役を務め、並河市長ら約20人とともに、JR長柄駅（天理市兵庫町）西側の水田地帯に点在する自前の説明板や滑走路跡、通信施設として使われた防空壕跡などを約2時間かけて巡った。

視察後、並河市長は

「（遺構は）劣化が激しく、しかも民有地にある。予算面も含め、どうすれば残せるのか検討したい」と語った。一方、高野共同代表は「単なる観光地化は望まない」と述べ、強制連行に触れないままでの保存にならないようクギを刺した。

【望月清輝】